



一〇 大日本国開闢本縁神祇秘文 だいにほんこくかいびやくほんえんじんぎひふん
 図書館蔵、目録二輯二七一・二一一八号。写本一冊。線装本四ツ目綴。柿渋表紙。題簽には「開闢本縁」とある。縦二七・三種、横一九・五種。蔵書印は「國學院大學図書館蔵」「堤文庫」「盛直

之印」。墨付十丁。料紙は、鳥の子紙。書写歴は奥書に「応永廿二乙未七月六日 以西川原本書写了、権禰宜匡興ノ慶安元年戊子九月十五日以大宮司御本書写了、権禰宜度會延良ノ慶安三庚寅年八月二日以延良自筆本書写了、法印祐海在判ノ承応第四乙未正月二日以祐海自筆本書写校合了、信慶ノ元禄十丁丑年九月十九日以信慶之本写之令校合御畢、権禰宜從四位上荒木田神主盛直(花押)」とある。

※ ※

豊受皇太神と天照皇太神は「一体无二ノ妙体、如如平等、一心無二」であることを真言密教の教理に基づいて説いた書。「亦実証上ハ大日如来下ハ我本師恵果阿闍梨至テ身嫡嫡相承明鏡也」、「我亦紀伊国伊都郡南山入定所宛多賀宮下部坂常通」とあるところから、空海に仮託されたものと考えられる。特に後者については、空海入定説話と関わるものであり、『神性東通記』『天照太神口決』にも同内容の記事を見出すことが出来る。また、本書は、諸種の祓詞や作法、両部神道に関わる伊勢祓の秘書を集成した「氏経卿記録」に「祓秘本」として引用される。引用箇所には「白衆等各念 此時清浄偈 諸法如影像 清浄無仮穢 取説不可得 皆從因業生」を含む。これは伊勢流祓における最重要秘伝とされ、「天都宮祝言神咒」とも呼ばれたものであり、『金剛頂經金剛界大道場毘盧遮那如来自受用身内證智眷属法身異名佛最上乘秘密三摩地礼懺文』の末尾に付された「清浄偈」で

ある。この偈は『倭姫命世記』『中臣祓訓解』や『神道灌頂授与作法』(『大日経第二卷有此文』とする。)にも引用される。

伊藤聡氏は『大日本開闢本縁神祇秘文』の成立には、『神性東通記』同様、度会常良の関与が考えられる、とする。牟禮仁氏は、本書奥書の「西川原」は度会家尚の事として、伊勢・西河原の地に住んだことからこの名で呼ばれたとし、同じく奥書の「以西川原本書写了、権禰宜匡興」とある点から、度会氏の持つ両部神道書が荒木田氏へと渡る経路をみてとれるとする。十五世紀に、西河原の地には『日諱貴本記』『両宮形文深釈』『麗氣記』が相伝され、両部神道と関連が深かったことも、牟禮仁氏によって指摘されており、本書もその一端を示す書である。

(大東敬明)

【所収本】

『真福寺善本叢刊六卷 両部神道集』(臨川書店)

所収、平成十一年(一九九九)

【参考文献】

右所収本の解題(伊藤聡執筆)

岡田莊司校注『神道大系 中臣祓註釈』神道大系編纂会、昭和六十年(一九八五)

牟禮仁「度会行忠と仏法―伊勢と京都との、中

世神道思想交流の事例として―」『中世神道形成

論考』皇學館大学出版部、平成十二年(二〇〇〇)

〇)